

今月のメッセージ 「コロナ感染で見えた事」



自宅待機解除に際して、保健所の方に確認しました。一緒に生活している妻の解除はまだですが、私は明日から外出しても大丈夫なんです？答えは「はい、大丈夫です」。やり取りしながら不思議に感じたことは、妻は外出禁止で、他人がわが家に入る事も禁止されているのに、ここに住んでいる私は出入り自由???でも、それ以上は尋ねませんでした。

ところで、この主たる原因は、人間は皆同じ空気を吸っているということだと思います。もし、これは私の吸う分だと個人所

有出来たら、事態は大きく変わるのでしょう。でも、この命に関わる「空気」そして「熱」「水分」これらは、どうしても共有しなければなりません。どれも流動的で、自分の物として一定の形で保有し続けることがほぼ無理です。そう考えると人は本来つながりあって、いろいろな物を共有しながら生きる事を楽しむ存在なのでしょう。

それを忘れていた私達に、親神様が大切な心を再確認して下さいのではないかと思いました。

(吉田)

立教一八五五年 四月号 (三月二十三日発行) 岡大教会連絡報

岡大教会ホームページ



oka.or.jp
発行所 高市郡明日香村岡 395
〒634-0111
天理教岡大教会
電話 (0744)54-2002
FAX (0744)54-3889
E-mail info@oka.or.jp
185.3.23 / 039

TOPIC

これまで長年に渡って岡大教会の世話人をお務め下さった飯降政彦本部長先生に代わり、昨年1月より宮森与一郎本部長先



大教会世話人交代後 初のご巡教 大教会世話人・宮森与一郎本部長先生

生が世話人を務めてくださることとなった。

1月23日の岡大教会春季大祭にご巡教くださった宮森先生は、春と秋に勤める「大祭」の意義について述べ、『おさしづ』を引用しながら教祖五十年のひのがたを振り返り、私たちがよくの基本の心遣いについて話を進められた。

続いて、今年の真柱様年頭あいさつを通して教祖140年祭に向けた歩み方にふれ、「ひながたをたどれるようべく」について言及。教祖のひながたは、理解できない人に理解してもらうための苦勞と苦心であることを説明した上で、「この苦心をさせていただき、理解してもらえらるまでの努力を積み重ねることがひながたをたどるということ」と話した。

最後に、来年から始まる教祖140年祭の年祭活動三年千日に向けた心得構えを話し、講話を締めくくられた。

R185 Event Information

大教会の諸活動

▼月定例行事▲

- 4日 岡心勇隊佐賀地区
- 8日 岡心勇隊奈良中和
- 9日 岡心勇隊五條橋本(あやの台)
- 13日 岡心勇隊八幡地区
- 15日 大教会ひのきしん(道弘)
- 18日 岡心勇隊大阪地区
- 21日 大教会ひのきしん(相嘉)
- 22日 祭典準備ひのきしん
- 22日 大教会ひのきしん(表野・飛鳥川・岡萩)
- 22日 大教会役員・直属教会長会議
- 23日 婦人会伏せ込みひのきしん
- 23日 大教会月次祭
- 23日 婦人会詰所ひのきしん
- 23日 婦人会詰所ひのきしん
- 24日 大教会ひのきしん(東松浦・西北)
- 25日 詰所ひのきしん日
- 26日 本部月次祭
- 30日 岡心勇隊姪浜会場
- 第一日曜日 おぢば伏せ込み団参(午前中)

▼その他の行事予定▲

- 4月 8日 直属巡教
- 4月 18日 教祖誕生祭
- 4月 19日 天理教婦人会第104回総会
- 4月 29日 大教会婦人会バザー
- 5月 24日 婦人会おてふり勉強会
- 5月 29日 全教一斉ひのきしんデー

※新型コロナウイルスの影響から、行事予定が中止、または変更される可能性があります。

教務報

- ◆春季霊祭台祀者(3月5日)
 - ・東志免 2代会長 高場 正幸
 - ・鶴城 4代会長 大野 彌左常
 - ・西壽 2代会長 黒川 壽信
- ◆教養掛
 - 3月 松浦郷 中島 道弘
 - 4月 東鹿島 早田 茂
- ◆別席願(1月16日〜3月15日詰所受付分)
 - 西北 鳥本 加代子
 - 相嘉 安井 大稀
- ◆おさづけの理拝戴願(1月16日〜3月15日詰所受付分)
 - 西北 高口 喜代江
 - 表野 蓮池 理々香

感謝の心を寄せ合って一手一つにひのきしん 4月29日

全教一斉 ひのきしんデー

会場一覧はこちら→

写真で振り返る二カ月
2月 February
3月 March

おぢば伏せ込みひのきしん



毎年恒例の「おぢば伏せ込みひのきしん」には、コロナ禍の影響をいとわず、老若男女約90人が参加。西の第2広場（旧足達邸跡地）で除草作業に汗を流しつつ、信仰談義にも花を咲かせた。

春の訪れを届ける紅梅



大教会の神苑には、さまざまな植物が植えられている。折々に咲かせる花や伸びる新芽、色づく実や葉から四季の移ろいを感じるが、この時期はやはり梅や桜が代表格。馥郁としたその香りが心を癒してくれる。

神殿講話の内容充実を



教祖140年祭を目指す歩みの一つとして、「神殿講話の内容検討会議」が1月24日に大教会で開催された。大教会役員のほか、婦人会や若手の部内教会長らも参加し、熱心な意見交換が行われた。

婦人会創立記念の日行事



明治43年1月28日に創設された天理教婦人会。その記念行事として婦人会岡支部（吉田陽子支部長）は1月25日、詰所で行事を開催し、約40人が参加した。当日はコロナ禍の影響から、支部長の話しのみが行われた。

ぜひ、友達登録してください

天理教岡大教会
LINE公式アカウント

様々な情報を配信します。
 ぜひ友達登録してください！



▲山間にある旧神殿前の道幅は約1メートル。重機も車両も入れないため、すべて手作業で進められた。

南淵分教会

真実を寄せ 一手一つに実動
南淵分教会旧神殿を手作業で解体



▲最終の清掃には、森井会長の子孫たちも参加した。

岡大教会より、南へ約3キロメートルの山間部に位置する明日香村稲淵地区。「日本の棚田百選（農林水産省）」にも選ばれている風光明媚な景色が広がるこの場所に、天理教南淵分教会（森井幸子会長）の旧神殿があった。

昨年1月の教会移転に伴い、解体することとなった旧神殿。しかし、道幅の狭い山間に位置することもあって重機や車両が入れず、具体的に計画を進めることができずにいた。

そこで今回、大教会として解体作業をサポートすることとなり、2月1日より着工。3月14日までの1カ月半、のべ約180人の手で作業が進められた。

解体作業を終え、借りていた土地を返却した際に地主さんは「最後まで丁寧に作業してくださり関心した。これだけの人が駆けつける天理教の団結はすごいですね」と話した。



▲コロナ禍の不安が各地で広がる中も、関西をはじめ、九州や関東など各地からひのきしんに駆けつけた。